



「仙台闘」とも呼ばれる甲冑。柳生心眼流兵法には実際に甲冑を着用して演武するものもあります。



市内で伝統・伝承芸能に取り組む人など約150人が参加

基調講演の2人と市民俗芸能協会事務局の千葉博幸さん、佐沼郷土史研究会会長の芳賀則夫さんの4人が「伝統伝承芸能 未来への道」をテーマに語り合いました



平成25年度(文化庁助成)文化遺産を活かした地域活性化事業
伝統・伝承芸能を考えるワークショップ

登米市文化協会

●事例発表



佐沼鹿踊(迫町)



とよま囃子(登米町)



赤谷神楽(石越町)

国・県・市指定無形民俗文化財・無形文化財(市内)

名称	団体名	町域
◎国指定重要無形民俗文化財 [1]		
米川の水かぶり	米川の水かぶり保存会	東和町
◎宮城県指定無形民俗文化財・無形文化財 [5]		
日高見流浅部法印神楽	日高見流浅部法印神楽保存会	中田町
登米能	登米謡曲会	登米町
上町法印神楽	上町法印神楽保存会	豊里町
とよま秋まつりの山車行事	登米秋まつり協賛会	登米町
柳生心眼流甲冑術・甲冑柔術	柳生心眼流兵法新田柳心館	迫町
◎登米市指定無形民俗文化財 [32]		
鹿島流十六拍子南部神楽	北方神楽継承会	迫町
滝沢流南部神楽	山ノ神神楽保存会	迫町
大綱おいとこ踊り	大綱おいとこ踊り保存会	迫町
森邑おいとこ	森邑おいとこ保存会	迫町
佐沼鹿踊	佐沼鹿踊伝承会	迫町
岡谷地南部神楽	岡谷地南部神楽保存会	登米町
とよま囃子	とよま囃子保存会	登米町
嵯峨立神楽	嵯峨立神楽保存会	東和町
飯土井神楽	飯土井神楽保存会	東和町
細野神楽	細野神楽保存会	東和町
綱木之里大名行列	綱木之里大名行列保存会	東和町
嵯峨立甚句	嵯峨立甚句保存会	東和町
小島田植踊	小島田植踊保存会	中田町
上沼法印神楽	上沼法印神楽神議会	中田町
加茂流館神楽	加茂流館神楽保存会	中田町
石森打ばやし	石森打ばやし保存会	中田町
笹流加賀野神楽	笹流加賀野神楽保存会	中田町
上沼獅子舞	上沼獅子舞保存会	中田町
小島願人踊	小島願人踊保存会	中田町
浅部七福神舞	浅部七福神舞保存会	中田町
長谷山甚句	長谷山甚句保存会	中田町
長谷山打囃子	長谷山打囃子保存会	中田町
長谷観世音虎舞	長谷観世音虎舞保存会	中田町
巻おいとこ踊	巻おいとこ踊保存会	中田町
本宮神楽	本宮神楽保存会	中田町
大曲法印神楽	大曲法印神楽保存会	豊里町
とよさと豊年ばやし	とよさと豊年ばやし保存会	豊里町
赤谷神楽	赤谷南部神楽保存会	石越町
須賀神流芦倉獅子舞	須賀神流芦倉獅子舞保存会	石越町
長下田神楽	長下田神楽保存会	石越町
畑岡神楽	畑岡神楽保存会	南方町
柳生心眼流兵法	古武道柳生心眼流兵法心武館	南方町

※米川の水かぶり、とよま秋まつりの山車行列は風俗慣習として指定

「伝統・伝承芸能を考えるワークショップ」では、課題を整理し、今後の方向性を探るため、宮城県多賀城跡調査研究所所長の笠原信男さんと南部神楽活動支援協議会最高顧問の神洗文眞さんによる基調講演が行われました。概要は次のとおりです。

基調講演①

「宮城県及び登米市の
伝統・伝承芸能を考える」

宮城県多賀城跡調査研究所
所長 笠原信男さん



●民俗芸能伝承の課題
民俗芸能を伝承する上で最近の一番の課題は、伝承者の高齢化、後継者の不足だと思っている。中でも高齢化というのは、芸能の伝承者だけではなく、日本全体の問題である。しかし、民俗芸能の伝承に関わっている人の年齢はもともと高く、残念ながら超高齢化となっている。後継者にならずに母体も少なくなっている。この二つが今後

の民俗芸能の伝承を考える中で、非常に大きな問題になっていく。

●学校教育との連携

伝承というところで考えれば、安定して後継者がいて、一年に何回も上演できればいいが、そうはいかない。そんな中で、学校と連携することで後継者を確保していく。学校の総合的な学習の時間を利用して、保存会などが生徒たちに教えるという形がある。仙台市泉区の福岡鹿踊・剣舞は、昭和50年4月に福岡小学校と保存会、当時の泉市教育委員会が児童に教育活動として練習させ、継承に関わることで意見が一致。特別クラブ活動で保存会の指導が始められた。その後、現在まで上級生が鹿踊・剣舞を伝承している。

保存会の指導のほか、6年生が師匠として4・5年生に指導も行っている。福岡小学校は、平成22・23年度に文部科学省のモデル事業実践研究校となり、全学年が鹿踊・剣舞に取り組んでいる。

●伝承と観光との融合

民俗芸能というのは、伝統的な舞の形などをできるだけ残してほしいということがある。一方で、それだけを守つ

ていくと、一般の人にはなじみが薄くなり、芸能をやっている人たちだけのものになってしまう。広く一般の人たちに芸能を知ってもらおうことが必要だと考える。

観光イベントとしての開催が、結果として伝承に役立っているものとして「北上みちのく芸能まつり」がある。

北上みちのく芸能まつりは、まつりをきっかけに復活した民俗芸能が、今の北上市にある芸能の8割にも及んでいる。観光イベントが一つの道としてあるのではないかと思う。

登米市では、「登米市民俗芸能大会」が毎年開催されている。民俗芸能の保護の視点で実施されているこの大会に、観光的な視点を入れて開催する道があるのではないかと考える。

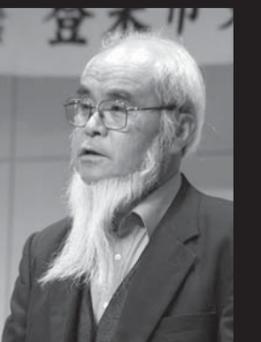
●団体の協力・連携が不可欠
未来へ民俗芸能を伝承していくためには、小さな団体個々では太刀打ちできない。知恵を出し合う組織や場所づくりが大切になる。しかし、組織を維持するエネルギーも大変なものがある。お互いに同じような状況で活動している団体が協力・連携していくことが重要ではないか。

●今が発信の絶好の機会
世界文化遺産となった平泉。その文化を発信することができるのは、それにまつわる演目を行っている南部神楽ではないかと思う。今が南部神楽を世界に発信する絶好の機会だと思つ

基調講演②

「現在の南部神楽・
未来に向かって」

南部神楽活動支援協議会
最高顧問 神洗文眞さん



●南部神楽の定義

南部神楽はいろいろな名称、表現をされてきた。「南部神楽」と統一すべきではないか。日本はもろろん世界に向かって南部神楽の素晴らしさを声高らかに伝えたい。

南部神楽は「和製のオペラ」。いわゆる古き能や歌舞伎の調べ、演目や演出を残しながら、民謡調の歌いまわして演ずるのが南部神楽の特徴、定義だと思つ

●今が発信の絶好の機会
世界文化遺産となった平泉。その文化を発信することができるのは、それにまつわる演目を行っている南部神楽ではないかと思う。今が南部神楽を世界に発信する絶好の機会だと思つ